

最上大豆だより

第1号＜圃場準備・播種編＞

令和7年6月2日

最上総合支庁 農業技術普及課

TEL：29-1333（作物担当）

大豆の収量確保に向けてのポイント！

①圃場の排水対策 ②土づくり ③適期作業

1 排水対策 ～明渠・補助暗渠の施工で排水効率UP!～

○圃場の排水が悪いと発芽不良や、根域の不足・根粒菌の着生数減少等による生育量の不足につながります。

○これらの対策として、**明渠による圃場表面の停滞水の防止**と**本暗渠や補助暗渠による透水性の確保**が有効です。次の項目に留意して排水対策を行いましょう。

明渠

- 確実に排水路につなぐ
- 深さの目安は30～40cm
（水田に隣接する圃場は特に深く施工）

補助暗渠

- （弾丸暗渠、サブソイラ等による心土破碎）
- 確実に明渠につなぐ
- 本暗渠と交差するように施工
- 間隔は5～10m おき

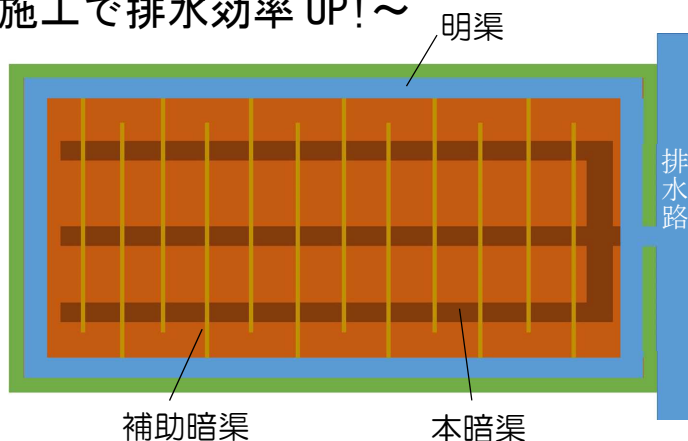


図1 転換田における排水対策の例

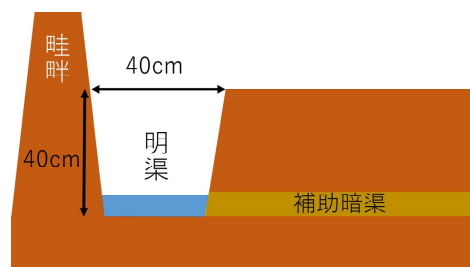


図2 明渠の施工例

2 土づくり ～pH改善と土づくり資材の施用で地力UP!～

○根粒菌活性の**最適pHは6.0～6.5**です。土壌pHを確認し、低い場合は苦土石灰等で酸度矯正を行いましょう。

○大豆は地力依存度の高い作物です。収量向上のため、**堆肥を積極的に施用**しましょう（表1）。

○基肥は表2の施用量が目安です。堆肥等を施用した場合は、堆肥等に含まれる肥料成分を考慮しましょう。窒素を施用しすぎると、根粒菌の着生と窒素固定量が減少するため、注意しましょう。

○耕起作業は出芽や除草剤の効果を安定させるため**砕土率（直径2cm以下の土塊の割合）が70%以上**になるよう丁寧に行いましょう。

表1 堆肥および土壌改良資材の目安

資材名	10a 当たり 施用量	効 果
発酵鶏糞	100kg	地力の維持、増強 ※左の内いずれかを施用
豚糞堆肥	0.5～1t	
牛糞堆肥	1～2t	
苦土石灰	80～120 kg	pH適正化、 根粒着生、生育改善

表2 基肥施用量の目安（成分 kg/10a）

窒素	リン酸	カリ
2～3	6～8	10～12

3 適期作業

①播種

品種の選定

○圃場条件や収穫時期を考慮して品種の選定を行いましょう（表3）。



里のほほえみ シュウリュウ

表3 最上地域で主に栽培される大豆の品種と特徴

品種	早晩性(成熟期)	百粒重	ダイズシスト センチュウ 抵抗性	特徴
リュウホウ	早生(10/7頃)	29g程度	強	しわ粒がやや多い
シュウリュウ	早生(10/8頃)	30g程度	弱	品質・収量はリュウホウに優る
里のほほえみ	中生の晩(10/24頃)	37g程度	弱	大粒、しわ粒が発生しにくい 成熟期後に莢がはじけにくい

播種適期

○大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬

適期内で播種時期が早いほど、開花期までの生育量（分枝数、茎の太さ等）を確保しやすく、収量向上が期待できます。

○播種時期が遅れる場合は播種量を増やして対応（表4）

播種が遅れたことによる生育量の遅れを栽植本数でカバーします。

表4 <播種時期別 10aあたりの栽植本数及び播種量の目安>

	播種 時期 (月/日)	栽植本数 (本/10a)	株間の目安 (畦幅 75cm、 2粒点播の場合)	必要な種子量 (/10a)		
				リュウホウ	シュウリュウ	里のほほえみ
適期	5月下旬～ 6月上旬	12,000	22cm	3.8kg	3.9 kg	4.7kg
↓	6月中旬	15,000	18cm	4.8kg	4.9 kg	5.9kg
晩播	6月下旬	18,000	15cm	5.7kg	5.9 kg	7.1kg

②病虫害防除

○播種後の病虫害を防ぐため、種子消毒を行いましょう。

○ネキリムシ類の成虫は雑草の葉や地際部に産卵します。

播種前からの圃場周辺の除草を徹底し、圃場近辺に産卵させないよう対策しましょう。

③雑草防除

○雑草発生量の多い圃場では、耕起前の農耕地用非選択性除草剤散布が効果的です。

○土壌処理除草剤は、遅くとも播種後2日以内に処理しましょう。

播種後の土壌処理除草剤は、圃場が乾燥し過ぎた状態で処理すると除草効果が劣ります。また、散布後の大雨により薬害が発生する場合がありますため、天気予報を確認して処理を行いましょう。

山形県農作業事故防止啓発運動 春季運動強化期間（4月1日～6月10日）
農作業は、焦らず、準備万端に、気を引き締めて。